

# しみん基金・K O B E NEWS

Vol.46

2018年12月号



認定 NPO 法人しみん基金・K O B E

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203 (サンピア 2 F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

「草の根性」こそ誇り

最近話題の「休眠預金」。民間の公益活動に活用されるということだったが、内閣府の基本方針を眺めると「ソーシャル・イノベーションの創出」とか「成果の最大化」などとカッコイイ文字が躍っている。めざしているのは成果主義の都市型事業なのだ。私は思わず唸った。これと比べてみて、改めてしみん基金・こうべの審査基準がいかにステキなのか、がわかったからだ。その理由を二つ話したい。

そもそも「成果」を基準にしていない。失敗をおそれず信じた道を歩んでほしいという意図なのだろう。そして、審査項目の一つに「草の根性」という項目がある。その団体がいかに社会的課題に地道に向き合っているかが注目点なのである（ちなみに、私は「くさのね」と読むべきところ「クサのコンジヨウ？」と読み間違えた。でも「根性」の語意を調べたら「物事をやり通すたくましい精神」とのこと。あながち間違いでもなさそうだ。）。もちろん内閣府の基本方針にはそんな言葉は出てこない。こんなステキな審査基準を掲げて長年にわたって活動を応援してきたしみん基金・こうべの心意気に感動した。私は本年度より審査委員長を務める。とても誇らしい気持ちになる。

しみん基金・こうべ 審査委員長

津久井 進

(弁護士法人芦屋西宮市民  
法律事務所)



応募総数は22件(一般枠20件、特定枠2件)、9月の理事会での書類審査を経て一般枠の11の団体にはプレゼンテーションを行っていただくことになりました。特定枠は申請が2団体のみだったため、今年度はプレゼンテーションは行わず、理事によるヒアリングおよび公開審査会前の審査員との打ち合わせ時に審議し、2団体とも助成することに決定いたしました。公開審査の結果は下記の6団体の事業に助成することになりました。

(一般枠6団体  
2百万円、  
特定枠2団体  
45万円)



平成30年度しみん基金助成事業は7月17日から8月31日まで申請を受け付け、10月23日(火)神戸市青少年会館にて公開審査会を実施いたしました。



助成先団体紹介

<一般枠>

(特活) なごみ  
西宮市

情報の伝達という地域課題解決のため、広島で開発された「ためまっぷ」の普及を図る。



(特活) ホザナ・ハウス  
神戸市灘区

援助交際から少女を守るためのシェルターを運営し、居場所を提供する。



(特活) 支援の会ひまわり  
西宮市

透析患者のための通院送迎支援と見守り活動を行う。



(特活) そらしど  
神戸市北区

医療的ケア児家族のニーズ調査とその報告会、調査対象者を対象とした勉強会等を開催する。



音楽療法士グループ  
りんでんぼうむ  
加古川市

音楽療法を普及し、障害者(児)の社会参加を促進するためコンサートを開催する。



<特定枠>

今年度は申請が2団体のみだったため、書類審査とヒアリングを経て審査会事前打ち合わせのみで助成を決めたためプレゼンはしていません。

神戸・心絆  
西宮市

1.17、3.11の竹灯籠追悼行事宮城県仮設での3月の追悼行事と8月のお盆追儀式、および市内清掃活動を実施する。

ガリレオクラブインターナショナル  
神戸市中央区

7月豪雨の被災地の中でもより支援が届いていない地域の現状を伝え、小冊子にまとめ写真展を開催する。





## 第2回黒田裕子賞 ご報告



昨年度創設しました黒田裕子賞は、第2回黒田裕子賞として、福井大学医学部看護学科臨床看護学講座災害看護学教授の酒井明子さんに決定いたしました。酒井さんは、阪神・淡路大震災後、東海集中豪雨、新潟豪雨、福井豪雨、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、能登半島地震、東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨で医療ボランティアとして活動され、今年6月には、柳田邦男さんと共に編著「災害看護の本質 語り継ぐ黒田裕子の実践と思想」(日本看護協会出版会)を出版されました。

公開審査会と同日に、贈呈式を行う予定でしたが、酒井さんのご都合が悪くなりご欠席となりましたので、審査会ではご報告と、酒井さんからのメッセージの代読をいたしました。下記にそのメッセージを一部ご紹介いたします。

今年度の黒田裕子賞は、黒田さんの功績などをまとめ「災害看護の本質」という本を出版した経緯からの表彰と伺っておりますので、まず、本の出版に至った経緯についてご説明します。

本書は、黒田さんの願いでした。黒田さんは2014年8月28日に西宮の病院に入院し、がんの宣告を受け、9月18日に故郷である島根の病院に転院しました。9月24日亡くなるまでの入院期間は、3週間あまりでした。西宮の病院に入院した直後、黒田さんは、阪神・淡路大震災20年を目前にし、まだ、やり残した課題を多く抱えており無念だと繰り返し自分の生き方が災害看護に役立つならば本にしてほしいと言いました。入院期間中でしたので、私は「わかりました」ということで精一杯だったのですが、我々に今できることは、黒田さんの意思を受け継ぎ、黒田さんと活動を共にした方々と黒田さんが抱いていた夢・やり残した課題・その精神の永遠性を見出すことであるうと思いました。そのような経緯から、本書は、命のある限り被災地支援活動を続けた黒田裕子さんの実践と思想をまとめることにしました。(中略)

最後に黒田さんの入院中のことをお伝えします。黒田裕子さんの最期はとても立派でした。面会の方々には一人一人に思いを託しました。病院の看護師さんたちの実践指導も行っておりました。意識が朦朧としながらも、災害看護について語ることを辞めませんでした。凄い精神力でした。

一番印象的だったのは、黒田さんが亡くなる4日前に夕日をずっと眺めていた時のことです。黒田さんは、故郷島根県の病院で、「死ぬのは怖くないが時間がながいのが悔しい。まだ、やり残したことがたくさんあったのに」と繰り返しながら、出雲大社の弥山に沈む夕日と儼かな夕映えを暗くなるまでの約3時間じつと見続け、自身のところを癒すかのように旅立つ前の穏やかな時間を過ごしました。そして、その4日後にご逝去されました。

黒田さんが夕日を見続けた日の翌日、柳田邦男さんが病院へお見舞いに来ました。柳田さんに夕日の話

をしたところ「サンIIテグジュペリの星の王子様を思い出しました」と言い、そして、「星の王子さまには、こんなシーンがあるのね」と話を続けました。

「ぼくね。日の暮れるころが、だいすきなんだよきみ、日の沈むとこ、ながめにいこうよ……」

「でも、待たなくっちゃ……」

「待つって何をさ」

「日が沈むまで待つのか」

「だって……悲しいときって、入り日がすきになるものだろ……」

黒田さんが、入り日を見たいと言った時、気温は、13度。とても、肌寒い日でした。19日に自身の検査値(桁違いの異常値)を知り、「後、数日ね」と言いながら、時間がないことを悔やみ、やり残したことを悔やんでいました。黒田さんは、死を目の前にしながらもいつもと変わらない会話で周囲を氣遣っていました。ここからは揺れているようでした。黒田さんは、神々しい故郷の夕日を見続け、徐々に暗くなっていく景色にこれまでの自身の人生を重ねつつ、今消えていくいのちを愛おしく思うように穏やかな表情になっていきました。そして、日が沈んだ時、悲しみを心の底にそっと置いて、死を受け入れるように「ありがとごさいます。感謝します」と言いました。その翌日からは意識が朦朧とする日が続いていきました。

本当に無念であったと思います。でも、最期まで辛いとは一言も言わずに周囲を氣遣っておりました。柳田さんが本文で書いています。「死とはその人の人生が短時間にインテグレートされて出てくるものではないかと。まさに見事な生き方でした。そのような黒田さんと共に活動することができてしあわせでした。アンサー法律事務所の永井弁護士が言いました。「我々には時間がある」と。まさにその通りです。黒田さんの実践と思想を時間のある限り語り継いでいきたいと思えます。





今年度も「みなとこうべ海上花火大会」に合わせてみなとのもり公園で開催されたチャリティ音楽フェス「カンパイKOBÉ」2018に出展しました。  
備えて、食べて、食べた分だけ買い足すローリングストック法の啓発を目的として2年前から実施していますが、今回は、(株)神戸新聞事業社と、ローリングストックinひょうご実行委員会を作り実施しました。



例年は、ローリングストック啓発チラシと共に、保存食を使ったアイデア料理を屋台で販売していましたが、今回はチラシ配布と共に、「ローリングストック」についてのアンケート調査を行い、応えて頂いた方にもれなくガチャガチャで出た、協力企業から提供された保存食をプレゼントする企画に変えました。

ガチャガチャは子どもに大人気で、無料ということもあり、ブースの前は長い列が途絶えることがありませんでした。



5百名近くの方にアンケートにお答えいただきましたが、6割の方がローリングストックについて初めて聞いたと答えられました。また非常食のイメージでは、4割近くの方がまずいと答えられましたが、非常食がおいしければ、より積極的に備えたいかという問いには85%の方が、そう思うと答えられました。

ローリングストック法では定期的に食べていくので、常温で90日程度持てばよく、非常食というよりは保存食で、干物や漬物、フリーズドライなどいろいろなものを活用できます。そのまま食べてもおいしければそれに越したことはありませんが、普段使っているローリングストックでは、おいしく食べる工夫・レシピをもっと知ってもらって、日常で食べられることが一番重要です。非常時は、普段から食べ慣れている食べ物が食べられることだけでもストレスを軽減できます。今回はレシピ提供はできませんでしたが、次回は検討出来ればと思います。

■特別協賛…(二財)大吉財団、

高知県幡多郡黒潮町

■協力…井上食品(株)、ハチ食品(株)、(株)フェリシモ、

(株)サタケ、エム・シーシー食品(株)、(株)神防社、

(株)オリバーソールズ、生活協同組合コープこうべ

神戸市水上消防署(順不同)

■助成…「県政150周年記念県民連携事業」

「中期計画をつくろうー」講座2018が始まりました。

この講座では、NPOのマネジメントについての座学講座での学びを、現実の自団体の置かれている状況に合わせて、個別訪問時に伴走するアドバイザーとともに、ミッションに基づいた数年後のあるべき姿とそこに至るロードマップ(事業計画案)を、メンバーと一緒に考えるプログラムを提供しています。

今年度は、10月18日に開始し、来年度2月末終了という長期間に及ぶのですが、毎月1回の座学講座の内容に合わせて、その後月1回ペースでアドバイザーが複数で個別訪問する予定にしています。

アドバイザーは、兵庫県立大学の當間克雄先生とNPO・NGOの組織基盤強化コンサルタントの河合将生氏(准認定ファンドレイザー)と当基金事務局長の江口(認定ファンドレイザー)の3人で、いろいろな視点を出し合うように工夫しています。過去4年間で累計15団体が受講され、団体の運営を改善していくきっかけづくりに役立ちましたと、大変好評を得てきました。

これから約半年間の長丁場ですが、それぞれの団体にとって良き計画づくりのきっかけになればと願っています。

■助成…ひょうごポラン

タリー基金地域づくり活動NPO事業助成







平成29年度助成事業が1年間の活動を終え、12月5日(水)に神戸市青少年会館をお借りして成果報告会を開催しました。

- 29年度の助成先7団体の他、30年度の助成先団体や市民のみなさまにご参加いただき、29年度の助成先団体が今年も
- ① 今回の事業内容とそれによる社会的成果
  - ② その後の展開(どのよな「つながり」ができたのか?又は、どのよな次代の担い手が育ってきたのか?)
  - ③ 助成がなくても自立していくための財源確保として工夫していること
- の3つのテーマで、発表され、それぞれの発表に対して、審査員や理事がコメントを述べられました。



今年度は公開審査会後の理事会での審議の結果、特別賞は該当なしと決定していたので、例年成果報告会と同時に実施している贈呈式は行わず、30年度の助成団体から各団体の成果に対しての感想などをいただきました。

ここ数年、発表後に参加者のみなさんで交流の時間をとるようにしています。分野の違う様々な活動の団体が集まることで、新たなコラボレーションが生まれたり、同じ種類の活動に取り組んでいる団体同士が意見交換する機会となっています。

最後に、常務理事の野崎さんより、「NPO法が施行して今年で20年となる。当初はNPOは社会の隙間を埋める活動のように言われた。そのような活動も必要ではあるが、そればかりではいけない。さまざまな社会の問題課題に怒りを持って、その問題や課題自体を解決し、隙間ができないような社会に変えていくことが重要だ。」と挨拶され、締めくくられました。

第3回 2018年度寄付がつなげる**まち** 育てる**ひと** Tani matching開催します。



おいしいお料理とお酒を飲みながら、地域の市民活動団体と市民や企業とを繋ぎ交流するためのチャリティパーティを開催します。今年も神戸市東部地域で活動している設立1年以上5年未満の5団体がプレゼンテーションをします。

昨年度は、65万円のご寄付をいただき、48万7千4百円の応援金をお渡しすることができました。団体と交流し、寄付という形での応援にご参加いただけますようお願いいたします。

日時.. 2019年1月22日(火)  
17時半~20時  
場所.. 神戸酒心館ホール

プレゼンテーション団体や参加方法など詳細は、当基金ホームページをご覧ください。



23年目のひとり言

〜スーパードランティア〜

今年も残すところわずか。それにしても今年は災害の多い年だった。大阪府北部地震、西日本豪雨、度重なる台風による被災、北海道での地震。災害が起こる度にボランティア活動に注目が集まった。ところが、今年の流行語大賞にもノミネートされたスーパードランティアが注目を集めたのは、8月に山口県周防大島で2歳児が行方不明になった事件だった。3日間捜索しても見つからなかった男児を捜索開始30分で発見し保護した尾島春夫さんのことだ。尾島さんが本格的にボランティアを始めたのは14年前。軽ワゴン車に生活用品を積み込み、助ける相手側からは力を借りない「自己完結するのが真のボランティアだ」という信条。「対価、物品、飲食、これは絶対、頂かない。敷居をまたいで家の中に入ることもボランティアとして失格だと思つてい

る。私はそれで良いと思うんですよ。人がどうしようとか関係ない。尾島春夫は自分なりのやり方がある。」正に個人ボランティアとしては、おっしやる通りだと思ふのだが、この部分のみをマスコミに切り取られると、市民活動団体として活動する立場としては、少々困ったことだと感じてしまう。一人で解決出来ない災害後の問題を団体として息長く支援していく為には、どうしても運営する資金が必要になる。私たちは社会に対して、市民活動の意義と在り方が周知されるよう根気強く活動していかねばならない。スーパードランティアに負けないように。

しみん基金・こうべ 専務理事

瀬戸口 仁三郎

会員数とご寄付のご報告

- ◆正会員 個人31名 団体3 団体
- ◆賛助会員 個人41名 団体14 団体
- (2018年11月末現在)

◆寄付・募金合計金額  
百68万3千3百74円

- ◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)
- 中島秀男、飛田雄一、高橋俊行、雨森孝悦、瀧 和男、脇田慎司、瀬戸口延恵、山田剛司、猪本郁、酒井明子、中村保佑、井上由紀子、山口聡子、オレンジスリフティ、(株)フルハウス、ブックオフオンライン(株)、ヤフー(株)、(二財)敬愛まちづくり財団、(二社)ウルノスブックオフコーポレーション(株)、(有)ポック(株)夢舞台ウエステインホテル淡路

(2018年6月〜11月)  
※皆様方からのご厚志に深謝致します。

クレジット決済もご利用頂けますので、ご活用ください。当基金ホームページの「クレジットサポーター」からアクセスできます！  
Tポイントでもご寄付いただけます。  
当基金ホームページのトップページにある「Tポイントでキフ」から願います！

「しみん基金・こうべ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間3千円  
団体会員 年間1万円

お申し込みは電話・ファクス・メールなどでお名前・ご住所・電話番号をお知らせください。ホームページからクレジット決済も可能です。

★振込口座  
三井住友銀行三宮支店

普通 7965892

みなと銀行本店営業部

普通 1597921

近畿労働金庫神戸支店

普通 4161854

郵便振替

00990-5-157334

口座名義すべて

「しみん基金・こうべ」

今年も災害の多い一年でした。被害にあわれた皆様には本当にお見舞い申し上げます。被災地支援のボランティアは最後の一人まで、と活動されていますので、当基金もそんなボランティアを応援していきたいと思つています。今年もご支援を難うございました。よいお年をお迎えください。(と)